

行政視察報告

議会運営委員会

議会運営委員会では、人口減少や厳しい財政状況を踏まえ、議員定数の適正化を通じて、円滑かつ効果的な議会運営の実現を目指すため「議員定数のあり方について」を、また、議会運営に関する様々な見直しや、時間の有効活用および審議等の効率化について調査、研究し、市民サービスの向上についてさらに推進するため「議会運営の効率化について」を、所管事務調査事項としている。

調査、研究を進めるに当たり先進地への視察が必要であると考え、令和8年3月定例会議で議員定数を1減する条例改正を行った、東京都あきる野市議会を視察することとし、併せて議員との情報のやり取りにLINEWORKSを導入し、効率的な運用を行っている事例についても視察することとした。

なお、本視察については議会運営に大きく関わることから、正副議長にも同行を願った。

視察地 あきる野市議会

視察期日 令和8年5月22日（金）

視察事項 (1) 議員定数のあり方について
(2) 議会運営の効率化について（LINEWORKSについて）

参加者 （委員長）久保 富弘 （副委員長）湖城 宣子
（委員）寺島 和成、井上たかし、片谷 洋夫
阿部 悦博、島崎 実、鴻井 伸二
（議長）山崎 勝 （副議長）山内公美子
（随行…遠藤次長、森田庶務係長、小林議事係長、石高主査）

【あきる野市議会】

◎議員定数の在り方について

1 議員定数1減への経緯

- (1) 令和5年12月にあきる野市議会議員の議員報酬について、平成7年の市制施行以降、特別職報酬等審議会で審議されていないことを踏まえ、議員報酬の額について定期的に審議会に諮問いただくよう市長に要請した。
- (2) 特別職報酬等審議会からは議員報酬を増額する答申が出された一方、附帯意見として「議員報酬を増額するに当たっては、本市の財政状況等を鑑み、議員定数

の削減を視野に入れ、議会においてあきる野市議会基本条例の規定に基づき調査検討が行われることを強く期待する」旨の意見が附された。

(3) これに対し、市長から議会に、適正な議員定数等について議論および意思形成に尽力するよう期待する旨の通知があった。

(4) 会派代表会議で対応を協議し「議員定数に関する特別委員会」を設置することとなった。

2 特別委員会の設置

(1) 名 称 議員定数に関する特別委員会

(2) 設 置 日 令和7年3月27日

(3) 設置目的 議員定数について調査研究する。

(4) 付議事項 議員定数の在り方について

(5) 委 員 数 8人

(6) 調査期限 調査終了まで継続審査とする。

(7) 開催回数 令和7年3月から同年11月まで計14回開催



あきる野市議会より説明を受ける委員

3 検討結果に至るまでの主な意見

(1) 議員定数について

ア 1人削減が望ましいとの意見（定数21人から定数20人）

イ 現状維持が望ましいとの意見（定数21人）

ウ 1人増員が望ましいとの意見（定数21人から定数22人）

(2) 議員定数を20人とした場合の常任委員会の構成について（3常任委員会）

ア 7人、7人、6人の構成が望ましいとの意見

イ 7人、7人、7人の構成が望ましいとの意見（1人が2常任委員会を兼務）

ウ 5人、5人、5人、5人が望ましいとの意見（4常任委員会、各5人体制）

(3) 市民アンケートについて

議員は市民の代表であること、アンケート調査には多くの時間を要すること、現時点で想定している調査方法では公平性や信憑性の観点で懸念が残ることなどから、このタイミングでは難しいとの意見が多かったため、実施しないこととした。

(4) 議会改革の推進について

議員定数に関する議論を進める中で、全委員から議会の更なる機能強化を図るため、今後も市議会として継続して議会改革を推進していくべきとの意見が出された。

4 特別委員会の検討結果

議員定数については、現行の21人から1人削減し、20人とするのが望ましいと

の意見が多数を占めた。その一方で、議員報酬の全体額を増額前に戻した上で、現状の定数を維持することが望ましいとの意見と、1人増員し22人にすることが望ましいとの意見があった。(報告書を作成)

※議員定数を1人削減する意見が多数を占めたため、全委員合意のもと、単なる両論併記ではなく、濃淡を付けた報告書内容とした。

5 特別委員会での検討結果（報告書提出）後の動き

- (1) 報告書を踏まえ、会派代表者会議で削減に前向きな会派から議案提出の発議があり協議した。
- (2) 提出時期は令和8年3月定例会議の初日で合意した。
- (3) 議員定数を1減とする議員定数条例の一部を改正する議案が提出、議決され、令和8年7月の一般選挙から適用されることとなった。

6 定数削減したことによる課題

常任委員会の構成をどのようにするか。

7 事前の主な質問に対する回答

問1 1減とした算定根拠について

- 答1 ①人口規模については、類似団体とも比較し約4,000人に議員1人を参考とした。
②人口減少について（平成24年約82,000人、現在、約79,000人）
③財政状況等の詳しいデータも各委員は参考とした。

問2 特別委員会ではどのような意見があったか。

- 答2 ①議員定数削減で生み出された財源を議会機能の強化のために投資する。
②議会の多様性は高めたい。
③市民アンケートを実施したらどうか。（調査方法や時間的な制約などから実施せず）

8 当日委員からの主な質問に対する回答

問1 特別委員会での協議内容について市民への発信は。

- 答1 市ホームページの中の市議会のページでの公表およびSNS（Facebook、Instagram）での発信を行った。

問2 定数削減議決後の市民からの反応はどうだったか。

- 答2 特に意見はなかった。

問3 特別委員会を設置して議論しようとした理由は。

答 3 P Tを設置してとの話もあったが、会派代表者会議から議論に重みをもたせるため特別委員会の設置をとの話があり、特別委員会を設置することとした。

問 4 特別委員会を運営していくために委員長として配慮したことは何か。

答 4 各会派色々な意見がある中でお互いのことを理解し進めていくことや、本音で話をするためには、時には委員会を休憩し議論を深めていった。お互いに議論を尽くせる環境を作ることが大事である。

◎議会運営の効率化について（LINEWORKSについて）

1 導入した経緯について

- (1) 会議システム、グループチャット導入に関しての課題認識を持つ中、令和元年11月にタブレット端末検討委員会を設置する。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和2年度にタブレット端末を導入、併せてLINEWORKSの無料版を導入した。
- (3) 令和3年9月にLINEWORKSを有料版に切り替え現在に至る。

2 導入費用について

- (1) LINEWORKSのプラン
スタンダード 年額160,380円（@450円×27ユーザー×12月×消費税）
- (2) 予算科目
議会費 使用料及び賃借料 情報伝達アプリケーション使用料

3 LINEWORKS導入による変化

導 入 前	導 入 後
・議員への連絡は、電話やFAX ・スケジュールの連絡を含め、文書等については交換箱を利用し配布	・緊急時を含め議員への連絡事項は、LINEWORKSのトーク機能を活用 ・冊子等でPDFで提供可能な配付物はSideBooksと連携しLINEWORKSで配付の旨を連絡 ・スケジュール連絡はLINEWORKSのカレンダー機能を活用 ・紙媒体の冊子等の配付は交換箱を引き続き活用

4 導入に当たっての約束事項

- (1) 私用では用いないこと。
- (2) LINEWORKS上での議論等のやりとりをしないこと。
- (3) 既読・未読が一目瞭然でわかるため既読になるように必ず通知を確認すること。
- (4) 返信しないこと。



あきる野市議会を視察した正副議長および議会運営委員

【視察を終えて】

このたびの視察にあたり、大変お忙しい中ご対応いただいたあきる野市議会の皆様に、心より感謝申し上げます。特に子籠議員様をはじめ、多くの事務局職員の皆様から丁寧な説明と温かい対応をいただき、視察を通じて得られた知見は非常に貴重であり、大きな収穫となりました。改めて、今回の視察にご協力いただいたあきる野市議会の皆様に御礼申し上げます。

あきる野市議会では、令和8年7月に実施される一般選挙に向け、議員定数をこれまでの21人から20人へと削減することが決定されています。この判断は、特別職報酬等審議会からの答申における附帯意見を受け、議員定数を見直す必要性を調査・検討した結果であります。同市議会においては、適正な議員定数を議論し意思形成を図るため、会派代表者会議や議員定数に関する特別委員会を設置し、計14回の委員会を通じて議論を深めるという丁寧なプロセスが取られていました。この取り組みは非常に参考になるものでありました。また、議論を重ねる中で報告書をまとめ上げたご苦勞を伺うこともできたことも参考となりました。

当市議会においても、今後議員定数のあり方について議論を進めるにあたっては、各会派が持つ多様な意見や考え方を尊重しながら、あきる野市議会のように丁寧な議

論を重ねることが重要であると感じました。議員同士が本音で話し合える環境を整えることで、より建設的で意義深い議論を実現できるのではないかと考えます。

また、議員間の情報共有やスケジュール管理の効率化が可能となる「LINEWORKS」の導入についても説明を受け、便利な機能を有するツールではあるものの、導入するには費用対効果等を十分に検証し、引き続き調査を進め適切な判断をしていきたいと思います。

本委員会では今後も、所管事務調査事項について積極的に調査・研究を行い、引き続き議論を深めることで、市民に身近で信頼される市議会を目指してまいります。

(議会運営委員長 久保 富弘)